詳しい情報はWEBで!!「遠賀川河川事務所」のHP版の「流域だより」には、より詳細な情報と、たくさんの写真も掲載されています。

※検索画面において、 遠賀川流域だより ダウンロード

で検索してください。

# 意意

# ET ESTATION OF THE PARTY OF THE

# 中元寺川子どもの水辺協議会





# 整備前の河川敷

## ~誰も近づかなかった中元寺川~

その昔、水は澱み、水辺には草が生い茂り、いつも河川敷は家庭から出たゴミで溢れていた中元寺川。いつしか住民の目が川に向かなくなってしまいました。 そんな中元寺川の現実を嘆いた沿線住民が少しずつ立ち上がり、平成13年に、 「中元寺川・川づくりの会」が誕生しました。

会ではまず、ゴミが捨て易い状況を無くす為、住民の死角となる荒れた河川敷の草刈りを定期的に行うことから始めました。また、子ども達が川を大切にとの願いを込めて描いたポスターを河川敷に掲げるなど、川に対する住民の関心を高める活動を少しづつ進めていきました。

## ~忘れられた川から愛される川へ~

地道な活動を続けていくうち、中元寺川へもっと眼を向けてもらう方法として、住民が自由に散歩できる散策路の設置や、子どもたちが川を安全に親しんで楽しめる"カヌー乗り場"の整備をつづった「川の利用に関する提案」を国に要望しました。

これらの提言を受け、国と住民団体は、中元寺川の将来を共に考え、現状 における課題やその解決策、又、そのために必要と思われる施設について具 体的に話し合うことになりました。

- そして、平成20年9月「後藤寺・弓削田地<mark>区子どもの水辺</mark>協議会(平成22年5月9日に「中元寺川子ど もの水辺協議会」に名称変更)」において、「中元<mark>寺川水辺公園」が</mark>作られることが正式に決まりました。





# ~これからが本当のスタート~

川の草刈から始まった小さな運動が、地元や国を動かし、ついには住民が 集える美しい河川空間を手に入れる事が出来ました。(平成22年7月完成)

しかし、施設の完成がゴールではありません。これから始まる維持管理、

活発な利用が最も大事であり、この施設を美しく維持<mark>し、多くの方々</mark>に利用していただくためには、 地元住民による活動が最も大切で<mark>あることは言うまでもありません。</mark>

## 完成した水辺公園



# ~犬鳴川みどりの会~



そして、平成7年、旧宮田町をオブザーバーとする住民のボランティア団体「犬鳴川みどりの会」が誕生し、具体的な整備に向けた動きが本格的に始まりました。会の創設当初は、まちの中心部に多くの人々が集えるくらいの大きな公園をつくる事は、物理的に難しいと考えていました。しかし会では、犬鳴川の堤防を有効に利用し、今ある堤防の幅を大きく増やし、尚かつ、歩行者専用道路として車を排除した公園とする事で、まちの中心部からのアクセスの容易さと、大きな面積を得る計画としてまとまり、念願の河川公園として整備される事となりました。





平成9年、ついに完成した大鳴川河川公園。そこには、大鳴川を気持よく眺めながら歩く事ができる歩行者専用道と、その沿線の広い芝生広場、更には堤防に沿って植えられた桜並木と、たくさんの花壇、そして延長750mにも及ぶ小川がつくれ、季節の花々と、鯉やフナなど水生生物達にも会える素晴らしい公園となりました。

そして、極めつけが彼岸花。秋になれば真っ赤な花が咲き乱れるばかりか、珍しい白い彼 岸花まで移植され、今ではまちの秋の風物詩となり、県内外からも見物客が訪れるスポット となっています。

## ~これからも地域に愛される公園であるために~

会のみなさんは公園の計画に携わったばかりではなく、完成後の公園の管理やゴミ拾いを完成後も続けています。 毎月最終日曜日には、広場の芝生・生け垣の手入れや、河川の草刈りなどが実施され公園を美しく保っています。 更に会では、春の「犬鳴川桜まつり」や、秋の「芋煮会」等も開催。住民交流の場としての取り組みも続けています。





# 

#### ▶福智町◆ 小さな心に環境意識は芽生えたか? 環境学習会を開催 11月19日(金)

彦山川が目と鼻の先にある福智町立金田小学校で、「田川ふるさと川づくり交流会」のメンバーが ゲストティチャーとなり、4年生を対象に環境学習会を開きました。

はじめに彦山川の現状を説明。「水質が非常に悪く、全国的に見ても汚い川」「たくさんの人たちが 河川清掃にがんばっているにも係わらず、不法投棄が後を絶たず、ゴミが大量に捨てられている現状」など、ふるさとの川の現状に 子供たちの元気もみるみる無くなっていきました。



続いて、これらの現実に立ち向かう会の取り組みや、汚れてはいるがたくさんの魚達が多く住む川の姿が話 されると、彦山川を愛する気持ちや、少しでもふるさとの川を大事にしたいとのメッセージが子供たちにも伝 わり、会の最後には「自分達にも出来る事は、魚たちが気持よく棲めるようにゴミを捨てない」「ゴミ拾いな ど川をきれいにしていきたい」と、多くの児童が感想を寄せていました。間近に流れるふるさとの川の現状を 知り、問題意識として小さな頃から常に考える事が問題解決の近道となるに違いありません。

#### ◆流域全体◆ まずは河川敷に花を植える事から始めました。 11月20日(土)

遠賀川交流会 主催:嘉飯都市圏活性化推進会議(飯塚市・嘉麻市・桂川町・福岡県)

飯塚市穂波福祉総合センター(飯塚市穂波)において、「ふるさとの川、遠賀川をもっときれいに」 とのスローガンのもと、日頃から環境美化に取り組む住民団体が一同に集まり、交流会が催されました。





基調講演では、神奈川県相模原市の相模川で、河川敷に芝桜を植栽する活動をしている「新戸芝さくら 管理委員会」の会長である児玉高典氏が講演。この活動は草が生い茂り、ゴミの不法投棄があとを絶たず 荒れ放題だった河川敷を再生しようと一人の市民が立ちあがり、美化活動を開始。少しずつ賛同者が増え、 大きな運動となって広がり、今では河川敷一面に芝桜の咲き乱れる憩いのスポットとなりました。

しかし、話が維持管理の話題になると表情が一変。整備までの話とはうって変わり、維持する事の大変 さ、ご苦労を切々と話され、慢性的なボランティアの不足や、金銭面の問題等を訴えられ、「整備された 後、いかに美しく維持し続ける事がもっとも難しい」と締めくくりました。

続いて三つの分科会より、「河川浄化」や「遠賀川の歴史」「花の植栽活動」についての事例報告。 既に昨年4月から始まっている、「遠賀川の河川敷に花に植え、地域のにぎわいを作り出す 遠賀川活用プロジェクト」の紹介や、「今後は、花を植えるエリアをもっと増やし、花咲く河川敷 で茶会や、様々なイベントを企画したい」と活動目標が発表されました。普段交わる事のない遠く離 れた方々のやる気と熱意が伝わり、それぞれの部会同士、良い刺激を受け合って、今後新たなネット ワーク作りにもこの交流会は役立っているようです。



#### ◆流域全体◆ 佐賀にあるアザメの瀬って凄いらしい 遠賀川流域活動団体報告会 12月4日(土)

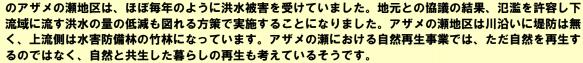
飯塚市において、 NPO法人遠賀川流域住民の会主催により、遠賀川流域で河川の清掃や環境教育等を行っ ている団体が集い、日々の活動報告や情報交流を行う「遠賀川流域活動団体報告会」が行われました。





アザメの瀬

基調講演では佐賀県の北部をながれる松浦川(武雄市相知)で実践された、自然 再生"アザメの瀬"の取り組みが紹介されました。松浦川は大きく蛇行しており、た びたび水害に悩まされてきました。特に自然再生事業の対象とした松浦川中流部



続く事例報告では、始めに、ひびき青年会議所の原 和彦氏より、遠賀川上流と下流の子どもたちが交流 を深めた取り組み「流域交流会」の様子、「中間ほたる・メダカの会」の大野 孝道氏からは、中間市にほ たるが帰ってきた取り組み、「嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会」からは、洪水時に、下流へ流れつく河 原に生い茂る葦を刈り取り、堆肥化する取り組み等が報告されました。実際に活動されている活動報告に加 え、参考となる先例地の取り組み紹介を通じてこれからの遠賀川を考えるよい報告会となりました。

#### ◆小竹町◆ 小竹の河川敷清掃にNHKも注目! 小竹町一斉清掃 11月28日(日)



お疲れ様でした

小竹町周辺の地域社会に対して、まちづくり及び環境保全に関する活動の普及啓発事業を行い、地域の 環境向上と地域の活性化に寄与することを目的として、 2006年に「小竹に住みたい まちづくりの 会」が結成されました。

会では、小竹町の河川敷を住民が憩える場所にしようと、結成当時から年2回の河川敷清掃や草刈りを 欠かすこと無く続けられています。昨年は11月28日(日)の小竹町一斉清掃の際に集結。広い河川敷を 丁寧に作業し、ゴミの分別も手際よく行われ、膨大なゴミがあっという

間にゴミ収集車に吸い込まれていきました。 この模様は、当日のNHKニュースでも取り上げられ、活動啓発に一役 かっていました。清掃後には、河川敷で刈り取られた枯れ草の焼却も行 われ、鎮火まで気を抜く事なく作業が続けられました。



# 造質川流域。适動觀

# ◆嘉麻市◆ 遠賀川に帰って来たサケを奉納しました 12月13日(月)



嘉麻市の鮭神社

「鮭神社」(嘉麻市大隈)は奈良時代(1250年前)に建立され、サケを神様の使いとして祭っている国内では珍しい神社です。毎年12月に開催される「鮭献祭」では、その年に遠賀川を遡上してきたサケを神の使いとして境内にある鮭塚に奉納し、五穀豊穣や無病息災を祈ります。

今年は、昨年に判明した島根県雲南市にあるもうひとつの「鮭神社」から、 氏子ら15人が初参加。今回の交流は、嘉麻市に鮭神社がある事を偶然知った 島根県側の宮司さんが、一昨年暮れに嘉麻市を訪問したのがきっかけ。

それまでお互い「日本に一つ」と称していたが、これを機に交流を深める事に



島根の鮭神社



石塚にサケが入れら れます



奉納の儀

なりました。 今年の「鮭献祭」はあいにくの雨にもかかわらず、 県内外から多くの人々が集まりました。 サケが遡上しない年は大根をサケに模したものを献上する事となっていますが、 今年は、祭りの直前の

12月1日に直方市で見つかった体長70cmのサケを献上する事ができ、3年連続で本物のサケを奉納することが出来ました。

昭和初期までサケが神社近くの川を上っていたという両神社。「サケが結んだ不思議な縁を大切に、島根と福岡の交流を今後も続けたい」と話されていました。

# ◆嘉麻市◆ 遠賀川のサケは新潟産?遠賀川流域で鮭が孵化してます。 12月13日(月)

昭和初期から炭鉱の最盛期である30年代までは、遠賀川の中流域から下流域はその黒い水の流から、 "ぜんざい川"と呼ばれるようになり、鮭はおろか、小魚さえも住めない川となってしまいました。しか し、時は移り、炭鉱も閉山し、徐々に川の水質も良くなり始めた昭和54年、数十年ぶりに遠賀川にサケ が確認されるようになり、遠賀川再生のシンボルとして人々に希望を与えました。

鮭が発見されたその年、嘉麻市大隈で酒造業を営んでいた(故)大里叶さんは、遠賀川にサケが帰ってきた事に感動し、「遠賀川に鮭を呼び戻す会」を発足しました。サケは産まれた川に再び戻ってくると言われており、「遠賀川でたくさんのサケを放流すれば、たくさんのサケが帰ってきてくれるにちがいない」と考え、サケの卵を新潟県村上市から譲り受け、関係者と試行錯誤を繰り返し、ついに遠賀川流域でサケの孵化を成功させました。そして、孵化した稚魚は、小学生の子供たちに放流される事にしました。



昭和の中頃の遠賀川

その理由とは、「サケの稚魚を放流することで子どもたちは"川を汚しちゃいけない"というよりも、"汚したくない"という気持ちを持ってもらいたい」という大里さんの願いからです。このサケの孵化・育成、放流事業は、大里さんの思いと共に遠賀川流域の住民によって今日まで受け継がれてきました。

今年も、献鮭祭の日に卵が届き、そして孵化が確認されました。今年は寒さのために孵化が遅いそうで、今年の放流時期は少々遅れ そうです。この放流の模様はこの「流域だより」で紹介します。お楽しみに。



届いたばかりの卵です



死んだ卵は取り除き ます



明はこの水槽でスクスク と大きくなります



1ヶ月もすればこの とおり



2ヶ月ではこう

# ◆田川市◆ 彦山川に夢の輝き 川を愛でる夕べのともしび 12月23日(木)~25日(土)



夢のような3日間

美しいイルミネーションは、「普段あまり眺める事のない彦山川をもっと意識してほしい」 「こんなにきれいなこの空間を汚したくないと感じて欲しい」との思いから発案され、官民協力のもと、巨大なイルミネーションが彦山川に登場しました。

建設用クレーンを使って吊るされたイルミネーションは全部で3基。 大きなものは高さが55mもあり大迫力!この予期せぬクリスマスプレゼントに、市民はもとより遠方からも見物客がたくさん訪れました。

これを企画した「ひこさんがわ夢の会」「田川ふるさと川づくり 交流会」「田川商工会議所」「田川市環境協会」では、イルミネーションと併設して河川敷にテントを併設。このテントでは、彦山川の 現状(ゴミや水質汚染)を、パネルやパンフレットを使って手渡し する等、河川美化活動も実施し、多くの人々にアビールする事に成 功しました。







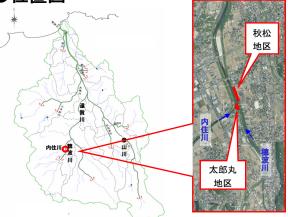
# 太郎丸・秋松地区の工事進捗状況をお知らせします

太郎丸地区(飯塚市)では、平成21年7月24日~2 6日の出水に伴い、はん濫注意水位を超える水位を記録 し、堤防のり面洗掘等の災害が発生しました。

被災箇所では、多くの家屋や上水道の関係施設等が隣接 しているため、浸食拡大により被害の拡大防止を図るた め、緊急復旧(仮復旧)を24時間体制で実施し、5日 で完了させました。

現在は、仮復旧していたところを本復旧していますので、 今年3月まで引き続き皆様のご協力をよろしくお願い致 します。

# 位置図



## ●被災状況



太郎丸地区の被災状況





秋松地区の被災状況

# 昼夜24時間体制での仮復旧



# ●現在の本復旧工事の実施状況









太郎丸地区の進捗状況(護岸を復旧しています)

秋松地区の進捗状況(護岸を復旧しています)

2月20日(日)

防災セミナー講演会「川内川豪雨災害に学ぶ自助と共助」

(場所:遠賀川地域防災施設(遠賀川水辺館)、備考:参加費無料)

2月26日(土)・27日(日) 第7回ふくおか水もり自慢!筑後大会(場所:久留米大学御井キャンパス)

### 遠賀川流域だより 皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

発行 国土交通省遠賀川河川事務所 住所 直方市溝堀1丁目1-1 (0949)22-1830FAX (0949) 22-2859 HPアドレス http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/



協力 NPO法人遠賀川流域住民の会 電話 0948-22-3535 http://www.ongagawa.jp/